



周年事業委員会からのお知らせ

企画委員長 亀井智子（聖路加国際大学）

聖路加看護学会設立 30 周年を祝し、下記の行事をを開催します。皆様のご参加をお願いいたします。

1.式典(9月27日(土)15時～)

「聖路加看護学会 30 周－発展の軌跡をたどる」



当学会の 30 年を振り返り、軌跡をたどります。

司会：亀井智子、飯岡由紀子

テーマ・演者： 聖路加看護学会の創成期(1995 年～2004 年)
聖路加看護学会の展開期(2005 年～2015 年)
聖路加看護学会の発展期(2016 年～2025 年)
聖路加看護学会誌に見る 30 年の研究発表の動向

小松美穂子氏
太田喜久子氏
山田雅子氏
高橋奈津子氏



小松美穂子氏



太田喜久子氏



山田雅子氏



高橋奈津子氏

2.記念講演(15 時 40 分～)

「WHO の取り組みを通じた PCC（People-Centered Care:市民を中心としたケア）の理念と実践
－その世界的な普及と課題－」



演者：芝田おぐさ氏（WHO 西太平洋地域事務局）(録画出演)



司会：田代順子

3.記念シンポジウム(16 時 10 分～)

「People-Centered Care を創る－開発から実装への軌跡」



座長： 大田えりか（聖路加国際大学）

高橋恵子（埼玉県立大学）

テーマ・シンポジスト

- ・PCC 事始め： 菱沼典子氏（聖路加国際大学名誉教授）
- ・PCC のケアモデルの発展： 高橋恵子氏（埼玉県立大学）
- ・大学が地域に開いた健康支援活動： 中村めぐみ氏（聖路加国際大学 PCC 開発・地域連携室）
- ・看護教育への還元と臨床実践： 大久保暢子氏（聖路加国際大学大学院 看護学研究科）
- ・臨床現場における実装： 山下悦子氏（聖路加国際病院 看護部）



菱沼典子氏



高橋恵子氏



中村めぐみ氏



大久保暢子氏



山下悦子氏

4.記念懇親会(聖路加国際大学 2 階ラウンジにて) (18 時～)

ビュッフェ・パーティーを行います。学会のこれまでやこれからについて、にぎやかに語らいましょう。
懐かしい仲間との再会もあるかもしれません。飛び入りゲストに乞うご期待！



5. 30 周年の記念品

30 周年の記念に残る品を用意しました。大会・懇親会参加者にお渡しします。

※ 大会への事前申込者優先・数量限定です

【学会に関連する写真・メッセージ大募集中！】

聖路加看護学会の 30 年を写真で振り返る企画を計画しています。

お手元の聖路加看護学会のお写真をご提供いただけませんか。

会員の皆様からの「一言メッセージ」も募集しています。

ご提出をお待ちしています！

【写真提出先 QR コード】



【メッセージ 提出先】



祝！30 周年！

第 30 回聖路加看護学会学術大会のお知らせ

「高度実践看護の未来を拓く－DNP の実装と普及－」



大会長 片岡弥恵子（聖路加国際大学）

いよいよ第 30 回学術大会ならびに設立 30 周年記念行事の開催が迫ってまいりました。昨年度と同様に、聖路加国際大学にて現地開催となります。企画委員が力を合わせ、すべて自力で準備を進めております。充実した学術的なプログラムに加え、様々な NPO の皆様と情報交換できる交流の場を設けております。是非、ご期待ください。会員の皆さま、参加登録はお済みでしょうか？学術大会と記念行事は、同日ジョイントで行います。参加登録は、学術大会の HP（<https://x.gd/KrG6O>）からお願いいたします。

皆様にお会いできるのを楽しみにしております。



学術大会・記念行事の参加登録 QR コード

●全体プログラム●

8:30-8:50	聖路加看護学会 会員総会
9:00-9:30	大会長講演 座長：飯岡由紀子（埼玉県立大学） 演者：片岡弥恵子（聖路加国際大学）
9:40-10:40	特別講演「米国における DNP のコンピテンシー」 座長：亀井智子（聖路加国際大学） 演者：馬屋原真佐子（ワシントン大学）
10:50-12:10	シンポジウム「高度実践看護・DNP の未来を拓く挑戦」 座長：大久保暢子（聖路加国際大学） 座長：大坪賢治（神戸市立医療センター中央市民病院・慢性疾患看護専門看護師） 演者： 池上直己（慶應義塾大学名誉教授/聖路加国際大学特別講師，日本医療政策機構） 大友晋（前・川口市立医療センター-CNS/聖路加国際大学） 若本恵子（虎の門病院 副院長・看護部長） 林直子（聖路加国際大学大学院がん看護学・緩和ケア）
12:10-12:50	昼休憩
12:50-13:50	ミニ講座 ・DNP の未来をどう切り拓くか 演者：榎戸文子、井出由美、松本佐知子、佐藤直子（DNP の未来を切り拓く会） ・DNP プロジェクトと教員の役割 演者：奥山絢子、奥裕美（聖路加国際大学） ・看護における EBI(evidence-based intervention)をどう考えるか 演者：増澤祐子（新潟県立看護大学）
14:00-14:45	演題発表
15:00-17:45	聖路加看護学会設立 30 周年記念行事 ・記念講演 ・記念シンポジウム
18:00-20:00	懇親会

聖路加看護学会看護実践科学研究助成基金 2023 年度採択者報告

「第 2 子出産における母親の育児状況の変化と困難：産後 1 年間に焦点をあてて」

永井智子

(大阪大学人間科学研究科 博士後期課程)

この度は、2023 年度看護実践科学助成基金をいただき、研究を推進する機会をいただきましたことに、心よりお礼を申し上げます。「第 2 子出産における母親の育児状況の変化と困難：産後 1 年間に焦点をあてて」というテーマで研究を実施しました。

本テーマの着想は、私が行政保健師として勤務していた頃までさかのぼります。当時、乳幼児健診や育児相談の場で、きょうだいの相談の多さを肌で感じていました。その後、私自身も複数の子どもの育児を経験するなかで、この状況を研究として言葉にしたい、支援を検討したいという思いを強くもつようになりました。

第 2 子を迎えることは、複数の子どもを同時に育てるための生活を再構築する必要があります。しかし、経産婦ゆえの支援の得られにくさが相まって、支援者側も支援を体系化することが難しい課題があるように思います。そのため、支援を検討する第一段階として、本研究では、複数の子どもを育てる母親の経験に着目し、第 2 子出産後の母親の育児状況の変化と困難の側面から記述することを目的としました。

研究デザインは、質的記述的研究です。2 人以上の子どもを育てる母親を対象とし、母親の背景を一定程度揃えることを目的に、子どもの年齢差が 5 歳以下であること、第 2 子が 1 歳以上かつ未就学児であること、母子ともに長期的な疾病や障害を有していないことを条件として設定しました。

分析の結果、2 人以上の子どもを育てる母親の困難の根底に“自分のペースで物事を進められず、見通しが立てにくいなかで生活を送る”ことがあり、6 つのカテゴリーが示されました。母親は【体調がどんなに優れなくても休めない】状況であり、第 1 子と第 2 子の育児を同時に行うことによる【際限なく続くタスク】と【想定外の出来事の連続】を経験していました。さらに、【上の子の変化を丁寧に受け入れる】ことを行いながら、【下の子の安全を守る】というそれぞれの子どもに対してのよりよい状況を模索していました。また、母親自身の体調や感情の起伏に対して【母親自身の心身の安定を保つのが難しい】状況であることが示されました。複数の子どもを育てることは、日常的にタスクが重なる状況にあり、自分のペースで育児を行うことが難しく、心身ともに負担の大きい状況でした。

研究助成の応募時と比較しても、本テーマに関連する先行研究が増えており、近年の子育てを取り巻く社会環境からも、同時育児に対する支援の重要性を感じます。保健師の教育に携わる立場としても、本研究の結果を参考とした同時育児を支援するための教育プログラムの開発等につなげていきたいと思っています。

このような機会をいただき、どうもありがとうございました。

聖路加看護学会看護実践科学研究助成基金 2023 年度採択者報告

「大学が地域に開いた市民主導の健康生成をめざす健康情報サービス事業の発展過程と課題」

射場典子

(聖路加国際大学 PCC 開発・地域連携室)

共同研究者：菱沼典子、高橋恵子、内田千佳子、大田えりか

研究協力者：中村めぐみ

聖路加看護学会 2023 年度看護実践科学研究助成のご支援を頂き、本研究を実施いたしました。研究の目的は、大学が地域に開いた市民主導の健康生成をめざす健康情報サービス事業の発展過程を明らかにし、今後の課題を検討することです。データ収集は、①既存資料の分析、②事業関係者へのインタビュー調査の 2 段階で行いました。②のインタビュー調査は、さまざまな時期の事業責任者 4 名、事業のコーディネーター 3 名、市民ボランティア 3 名の計 10 名の対象者に実施しました。その結果、時期ごとの構造的な状況と発展につながる出来事が抽出され、2004 年に開設された健康情報サービス事業の 20 年間の歩みは、「創設期」、「模索期」、「安定期」、「発展期」の 4 期に分類することができました。

創設期（2003–2007 年）は 21 世紀 COE プログラム「市民主導型の健康生成をめざす看護形成拠点」の研究期間であり、準備段階から市民の健康相談のニーズ把握、健康相談における PCC のあり方の探索を精力的に行った時期でした。

次の模索期（2008–2015 年）は、健康支援ボランティア養成講座を終了した市民ボランティアが、日常的に活動に参加し、様々な関係性の中で創設期に探索した PCC を実装するための努力や葛藤が続いた時期でした。また、この時期は 21 世紀 COE の助成期間が終わり、資金、人材を得ることが困難で、不安定な時期でもありました。

安定期（2015–2021 年）は、大学の事業として安定した人材、場所、予算（健康相談等の有料化を含む）が得られ、常勤の看護師、事務職員を配置して事業を展開した時期でした。

発展期（2022 年–）は、地域連携の窓口の役割を担う部門として事業の拡大を図っており、市民の主体的な健康生成を意図したサービスが量・質ともに充実し、大学と地域を結ぶ点からも、機能を発揮していました。PCC の実装の場として多様な役割を果たしており、PCC を学ぶ学生や医療職の教育の場としても活用が拡大していることがわかりました。

以上の結果より、発展過程の変化の契機となった要因と、今後に向けた課題を考察しました。4 期の発展には「PCC の探求」「資金」「人材」「場所」「地域との連携」などの要因が影響しあっていたことから、今後の発展にはこれらを継続して獲得していくことが必要と考えられます。大学が地域に開いた健康情報サービス事業は健康社会の構築に有用な事業であり、他施設へ普及させる取り組みが今後の課題です。聖路加看護学会のご支援のもと、20 年間にわたる PCC 実践開発の軌跡を振り返る機会を頂きましたこと、心から感謝申し上げます。

■ 学術交流委員会からのお知らせ

学術交流事業について、今年度もオンラインでの企画を進めています。2026 年 3 月の開催となる予定です。2024 年度は「地域包括ケアシステムの根拠となる理論」について、学び考えることができました。2025 年度は少子超高齢多死社会において、看護が地域で暮らす人々と共にあるために、どのように活動や事業が展開できるのか、ユニークな看護活動されている方々に課題やビジョンについて伺いながら、一緒に考えたいと思います。そして、看護実践科学助成事業として研究助成の募集の準備を進めています。12 月に募集を開始します。助成総額が 40 万円です。多くの方の応募をお待ちしています。

(担当：梅田恵、宇都宮明美、鈴木美穂、佐藤直子、中山祐紀子、松本文奈、山本真実、監物佳子)

■ 選挙管理委員会からのお知らせ

2026 年 6 月の理事の任期満了に伴い、今年度、選挙を実施いたします。選挙は、定款および評議員・役員選挙規程に基づき、選挙人である評議員の方々へ投票用紙を郵送して行います。投票期間は、2025 年 10 月 25 日～11 月 9 日（当日消印有効）です。選挙の詳細につきましては、聖路加看護学会ホームページに掲載している「[一般社団法人 聖路加看護学会 理事選挙告示](#)」をご参照ください。

なお、本年 6 月をもって 3 名の選挙管理委員が任期満了となり、新たに青木美紀子委員（聖路加国際大学）と浦口真奈美委員（聖路加国際大学）の 2 名が委員に加わりました。これにより、選挙管理委員会は 4 名体制で運営してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

(担当：相澤恵子、青木美紀子、射場典子、浦口真奈美)

■ 学会誌編集委員会からのお知らせ

暦の上では秋を迎えますが、依然として厳しい暑さが続いております。本学会誌において今年度 4 月より、共著者に非会員を含む論文についても投稿いただけるようになりました。詳細につきましては、オンライン投稿システムをご参照ください。第 29 巻では、研究報告 1 編が web 公開されております。現在査読中の論文につきましても、迅速に査読が行われるよう努めてまいります。

国内外の研究者、様々な職種の方々や当事者の方々との協働研究や実践に取り組まれている皆様からの投稿を、編集委員一同、心よりお待ちしております。

(担当：高橋奈津子、大坂和可子、飯田真理子、川端愛、三浦友理子、榎戸文子、加藤木真史、沢田恵、蜂ヶ崎令子、山岡栄里、高山千春)

■ 高度実践看護開発検討委員会からのお知らせ

～2025 年度の活動について～

2025 年も高度実践看護を推進するための研修会を開催いたします。

12 月開催の予定で、多くの方に興味をもっていただけるよう委員会で検討しております。詳細が決まりましたら、ホームページでご案内いたしますので、楽しみにお待ちください。

(担当：青木悠、小林成光、小松崎朗子、山本加奈子、吉田智美、渡辺かづみ、柳橋礼子)

■ 庶務からのお知らせ

厳しい暑さが続いていますが、いかがお過ごしでしょうか。会員の皆様におかれましては、どうぞお体に気を付けてお過ごしください。

庶務は、学術大会、理事・評議員の改選などを中心に企画委員会や選挙管理委員会と連携しながら進めております。皆様も、学術大会、選挙に向けて学会費の納入をお済ませくださいますようお願い申し上げます。勤務先、所属、住所などの変更がございましたら、学会ホームページの会員情報変更にあります「[変更届フォーム](#)」をご利用ください。もしくは学会事務局までお知らせくださいませ。事務局への連絡は郵便、FAX、E-mail のいずれでも可能です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

(担当：五十嵐ゆかり、青木裕見、沖村愛子)

■ 会計からのお知らせ

厳しい残暑が続いておりますが、皆様にはお変わりなくお過ごしでしょうか。

おかげさまで 2025 年度の予算が無事に成立いたしました。今後も学会活動のさらなる充実に努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

また、9 月 27 日には第 30 回聖路加看護学会学術大会が開催されます。お誘いあわせの上、ぜひご参加ください。

学会活動は皆様の会費により成り立ちます。昨年度は大変多くの学会員の方が年会費を納入くださいましたこと、感謝申し上げます。本学会の規定では、3 年間年会費を滞納された方は除名となります（その際にも未納入の会費の請求を行います）。魅力ある学会をつくるために、ぜひ年会費納入へのご協力を引き続きお願いします。

(担当：林直子、亀田典宏、木村理加)

振込み先：郵便振替口座

口座番号：00100-8-670371

加入者名：一般社団法人聖路加看護学会

■ 編集後記

暑い夏を乗り越えて、第 30 回学術大会・設立 30 周年記念行事を楽しみたいと思います。

(担当：増澤祐子 賀数勝太 廣田千穂 池口佳子 海老原樹恵 飯岡由紀子)

ニュースレター発行や様々な情報をメーリングリストでお伝えします。

メールアドレスが変更された場合は、学会事務局 slnr@slcn.ac.jp までご連絡ください

一般社団法人 聖路加看護学会ニュースレター

▶ No.70 発行：2025 年 8 月 29 日

▶ 編集：広報委員会

(飯岡由紀子 池口佳子 海老原樹恵 賀数勝太 廣田千穂 増澤祐子)

▶ 連絡先：〒104-0044 東京都中央区明石町 10-1 聖路加国際大学内

変更届フォーム



「学会ホームページ」<https://slnr.or.jp/>